



かがやき

Vol.52
2018
11月

☆☆☆第2回共同機構研修会を実施しました！☆☆☆

今回は、元東京家政大学ナースリールーム主任保育士の井桁容子先生にお越しいただき、乳児保育についてだけでなく、保育の専門性も含めてお話しいただき、大変学びの多い研修となりました。

京都市保育士会共催

平成30年5月16日

0・1・2歳児のココロを読みとく保育のまなざし

講師 井桁 容子 元東京家政大学ナースリールーム主任保育士

新しい保育所保育指針では、「温かく共感しながら、受容的、応答的にかかわること」が大事にされています。赤ちゃんは、人を見るようにできており、その人が無愛想で事務的に着替えさせたり食べさせたりする人なのか、それとも、共感的で応答的な人なのか分かり、保育での保育者のかかわりによって育ちに大きな差が出ます。では、保育者の意図したことを子どもに分からせ、できるようにすることが保育でしょうか。保育者は子どもを本当に分かっている専門家でしょうか。子どもを分かるためには、子どもを見ないといけません。子どもはみんな違います。子どもをできたかできないかと外側から見るのではなく、子どもの内側から共感し、その子の心の中に入り込んでみてください。これからは、心が大事ですし、子どもは自分の内面の思いを分かってくれる人に出会わないと心が育ちません。心の育ちは0歳から必要であり、0歳児の保育者の専門性は本当に重要になります。

私たちが望む人間像は情緒が安定し、折れない心を持って、どんな時も頑張れると思える人です。どうすればこのような心が育つでしょうか。それには、保育者や先生の言うことを聞いていればよいのではなく、子ども自身が考えて行動できるようにしなければいけません。乳幼児期の教育は、教えてできるようにすることではなく、自分の思いや力を安心して発揮できる環境で、遊びなどの自発的な活動を通して体験的にさまざまな学びを重ねることであり、子どもが自由に遊ぶ中にあります。0歳児の保育では、その子が寝たい時に眠れて、食べたい時に食べられるよう一人ひとりの生活リズムを尊重して保育してください。子どもは、一人ひとりの個人差もありますからこれらを尊重して、0歳の時から、遊びたい時に遊べて、眠い時には眠れるのだと思えることが大切です。

0, 1歳の時期をしっかりと応答的、共感的に保育することで、2歳でも自分で考えることができるようになります。これが非認知能力といわれるものであり、とても大事な力なのだと思います。

急いでいい子どもにしようとは思わずに、もう一度、私たちが子どもたちを信じ、一人ひとりの毎日と面白がって付き合い続けてみてください。このように接した子どもだけに基本的信頼感が育ちます。0歳児から基本的信頼感を育てるためには共感的な環境が必要で、0歳児の先生こそ一人ひとりいろいろな思いを共有しながら丁寧にかかわってください。ここが保育の一番大切なところなのです。

講義の詳細は、要録ページをご覧ください。 [要録ページへ](#)

研修には参加できなかったけど、
上記の要約を読んでもっと学びたくなった方は……



講演のDVDを見て学びませんか？

大変反響の大きかった井桁先生の講演ですが、園内研修としてDVDを利用して学んでいる先生方がたくさんおられます。今日は利用後の感想を一部ですが掲載しますのでご覧ください。みなさんも一度借りて学んでみませんか。

<感想から>

今回は職員研修の場でこのDVDを視聴しました。テーマには「0・1・2歳児」とありますが、“子ども”を見る大切な視点から保護者対応にいたるまで皆で確認することが出来ました。参加した職員からも井桁先生のお話はとても分かりやすく、いい学びができたと多数声が上がっていました。研修前後合わせて1ヵ月間DVDをお借りできたことで、DVDの内容を土台に研修内容を組み立てる作業もしっかり検討することができたと思います。ありがとうございました。

貸出方法

1. 電話で借りるDVDの予約をします。
2. DVDを受け取る際には利用申込書を提出して下さい。
3. 一度に5本まで、期間は1ヶ月間借りることができます。
4. 利用報告書を添えて返却してください。

詳しい方法や必要な用紙はこどもみらい館HP共同機構研修のページをご覧ください。

共同機構研修会 京都市改進黨保育所公開保育から学ぶ

講師 古賀 松香 京都教育大学准教授

昨年度に初めて実施しました公開保育研修会、参加された先生方をはじめ多数の先生方から、今後もぜひ公開保育研修を行って欲しいと強い要望がありました。

今年度も京都教育大学准教授の古賀松香先生に講師をお願いし、6月22日京都市営保育所のご協力をいただき、改進黨保育所の乳児クラスの公開保育研修を実施することができました。

1 研修概要説明

古賀先生から「公開保育研修の意義」と「保育を見る視点」についてのお話を聞きました。



感受性豊かな子どもたち、いつもとは違う雰囲気には驚いたり、とまどったりすることのないように、参観者は、「壁の花になる」参観の心得についてもお話いただきました。

2 保育観察

見る視点に基づいて、実際に子どもたちが遊んでいる様子や保育者のかかわりなどを観察しています。



3 各担当別協議

- ① 参観後、グループ別に分かれて「いいなと思った点」と「こうすれば更に良くなる点」を付箋に書きます。



- ② 書き出した付箋を模造紙に貼りながら、子どもの姿・環境・保育者の援助について話し合いました。

- ③ 各担当ごとに話合った内容を報告し、参加者全員の気づきとしました。



4 指導助言

最後に講師の古賀先生から、各グループの報告を含めて、指導助言をしていただきました。

- ・養護と教育は、どちらも分かちがたく重要であること
- ・子どもたちが遊びを通して学んでいることを保育者が見とること
- ・保育室やテラスの環境がねらいある環境となっているか
- ・子どもの様子に応じて、環境を再構成していかるか
- ・教材研究の重要性について
- ・保育者の援助や豊かなことばかけの大切さについて
- ・保育を公開くださった先生方の勇気ある姿に感謝すること
- ・保育を公開することが、保育の質につながること・・・など

たくさんの気づきや学びをいただきました。



共同機構研修会 京都市立中京もえぎ幼稚園公開保育から学ぶ

講師 古賀 松香 京都教育大学准教授

第2回公開保育研修も京都教育大学准教授の古賀松香先生に講師をお願いし、9月19日京都市立幼稚園のご協力をいただき、中京もえぎ幼稚園の年長児クラスの公開保育研修を実施することができました。

1 研修概要説明

古賀先生の「公開保育研修の意義」と「保育を見る視点」について、お話を聞きました。



2 保育観察

見る視点に基づいて、子どもたちの取り組む姿、友だちとのかかわりや保育者の援助などを観察しています。

3 各担当別協議

- ① 子どもの姿、援助、環境にわけて付箋に書きます。皆さん黙々と書いていました。



- ② 子どもの姿や保育について語り合うことは楽しいようで、活発に話し合われていました。



- ③ 各担当ごとに話し合った内容を3分間にまとめて報告しました。

4 指導助言

本日の公開保育とグループの報告を含めて、指導助言をしていただきました。

- ・縄あそび、竹馬、リレーの運動遊びにある要素について
- ・幼児教育における運動遊びについて
- ・身体知について
- ・運動遊びと好奇心・探究心について
- ・体験の多様性と関連性と好奇心・探究心との関係について
- ・保育者の専門性の向上について
- ・何を伝え、何を共有するかについて

この時期に、運動的な遊びを通して、子どもたちに何を育てたいのか、子どもたち一人ひとりの今の心と体の状態を細かく捉え、その状態や課題に必要な支援を考えることなど、明日の保育につながる保育者の援助や環境構成についてお話をいただきました。

古賀先生作成レジュメより

参考:研修を終えて(各園所の保育の質向上へ生かすために)

- ☆ 今日の研修で得られた視点や方法があれば、それらを生かす園内記録の形式や研修の枠組みを具体的なかたちにしてみることをおすすめします。
- ☆ 研修は、継続的な取組が重要です。保育者同士のフラットな関係性の中で、各々が、見とりの目、感知する心、体感始点の思考の3つを鍛え続けることをぜひ意識してみてください。

このように記述していただいていた。

共同機構研修会においても、今日的な課題を見据え、保育の質の向上となるように今後も努めていきたいと思っています。

親子の気持ちに寄り添う支援を考えよう

～私たちにできる連携とは～

講師 笠井 八千代

京都市右京区役所保健福祉センター子どもはぐくみ室 室長

特別研修会とは・・

共同機構研修の中でも特別研修会は、保育園(所)や幼稚園と行政機関である子どもはぐくみ室との連携をねらいとして実施しています。

親子は、地域の子どもはぐくみ室がさまざまな関わりを持ちながら支え、そして園(所)に入園することから、こどもみらい館では、子どもはぐくみ室と就学前施設が共に親子を支えていく役割があると考え、地域の連携を深めるため、「つながり」をテーマに平成18年から研修会を行っています。また、平成27年度からは、グループ討議を取り入れ、共に語り合うことから更に連携が深まるような研修を行っています。



今年度は、右京区役所保健福祉センター 子どもはぐくみ室 室長 笠井 八千代さんに、データに基づいて、子どもと家庭をとりまく状況をお話しいただき、妊娠期、出産期から子育て期における切れ目のない支援として、子どもはぐくみ室が行っている施策を丁寧に教えていただきました。現場の保育者にとっては、知らない施策もあり、実際の親子への支援に役立つものとなりました。また、最後には具体的な事例から私たちにできる支援としてグループ討議を行い、参加者はざっくばらんに「こんな支援があるよ」「以前、こんなふうに親子に関わったことがよかった」など、経験や気付きを互いに伝え合うことが学びとなりました。



グループ討議の様子



アンケートから

- グループで親の悩んでいることや支援について話し合い、様々な意見を聞いたのでよかった。
- いろいろな園の先生方と同じテーマで話し合えることで自分が考えていなかったことまで理解できた。ありがとうございました。
- 1時間半では時間がたりないように思いました。子どもはぐくみ室もたくさんの支援事業があるが、私たちは具体的なことがわからないことが多く、保護者からの相談にもしっかりと応えられないこともある。京都市の支援事業についてもっと学びたいと思った。



子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。
(「京都市はぐくみ憲章」より)

この印刷物が
不要になれば
「雑がみ」と
して古紙回収
等へ!



発行日 平成30年11月21日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町601-1
Tel (075)254-5001 Fax (075)212-9909
URL <http://www.kodomomirai.or.jp>